

# 佐那河内小学校 「学力向上実行プラン」

## 研究テーマ

小中学校9年間を見通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

## 学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 阿部 結香  
委員 校長:後藤田育秀 教頭:松岡利光  
教務主任:堀井晴美 特別支援コーディネーター:和田久美子  
低学年推進員・国語主任 福井光恵  
高学年推進員・算数主任・人権教育主事:福田明美

校長

後藤田 育秀



### (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	ステップアップテストの結果から、国語科の「言語事項」、算数科の「知識」においては、一定の成果が見られる。	・各教科の単元テストで、正答率を80%以上にする。 ・ノートや日記で適切な語彙や漢字が使えているか点検する。			
課 題	学力に個人差がある。漢字やローマ字を確実に覚えていなかったり、漢字を文章中で適切に使えなかったりするところがある。身に付けた知識技能を活用できていない。	・朝のドリルタイムで漢字・計算など繰り返し行う。 ・ノート・日記指導を充実させるとともに、10分間読書や週末読書を奨励する。 ・構造的な板書を心がけ、言語環境を整える。		評価	次年度における改善事項
	具体的方策(教員の取組)	取組指標			

### (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	既習内容を基にして、新しい考えを導き出したり表現したりできる児童が多い。自分の考えを文章で表現する力がついてきた。	・各教科の振り返り活動で、「自分の考えを発表したり書いたりして伝えることができた」と答える割合を70%以上にする。			
課 題	理由づけをする、具体例をあげる等、筋道を立てて説明したり文章を書いたりすることに課題がある。要点を整理し、まとめる力に個人差がある。	・ホワイトボードミーティングの手法を取り入れたり、ディベート、グループでまとめて発表する機会を増やしたりする。 ・学期に2回程度、作文読本に数名ずつ投稿する。 ・月2回朝の学習時にNIEを実践する。		評価	次年度における改善事項
	具体的方策(教員の取組)	取組指標			

### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	落ち着いて話を聞き、真面目な学習態度の児童が多い。与えられた課題について、積極的に取り組んでいる。	・各教科の振り返り活動で「自分から進んでめあてをもって学習している」の割合を70%以上にする。			
課 題	自ら課題を見つけて、見直しをもって取り組むことが苦手である。向上心をあまりもたず、現状に満足している児童が多い。	・学びの質が高まるように授業改善に努める。 ・計画的に家庭学習時間の調査を行い、保護者へ家庭学習の重要性の啓発を行う。		評価	次年度における改善事項
	具体的方策(教員の取組)	取組指標			

## 平成31年度 学力向上ロードマップ

